
とある王国の研究日記

ベルト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある王国の研究日記

【Nコード】

N0775K

【作者名】

ベルト

【あらすじ】

ある王国で一人の科学者がつけた研究日記。
科学者はその国の不思議な生き物達に興味津々だった。
そして、一人の男と出会い彼の好奇心はどんどんそられていく。

不思議生物その1

私はただの科学者だ。

今はある土地に住み込んで、研究をしている。

この土地にあるものは本当に不思議だ。

なんとも興味深い。

いつも新しい発見が私を楽しませてくれる。

これほど、科学者にとっての天国があるだろうか…。

おお、そんなことをいつているうちにまた不思議な生き物がやってきた。また観察してみようか。

なんとも奇妙な姿をしている。

まるで、小さな子供が描いたキノコのような体だ

キノコのかさのようになっていて茶色い頭は、その下に生えている体よりもはるかに大きい。

あれでバランスがとれていることが不思議でしかたない。

胴体は黄色に近い色をしていて縦長な楕円形に近い形だ。腕や尾のようなものはなく、小さな茶色い足がちょこんと生えているだけだ。

顔はとてもいかつい表情をしている。

太いまゆに、つり上がった目。あごはしゃくれていて、口からは小さなきばが二本ほど見えている。

本当にちいさなきばだが、噛まれたりしたらかなりに痛そうだ。

その生き物は草原の辺りでひたすらうろついている。まるで何かを待っているようだ。

しかしなぜだろう。

あの生き物を思いつき踏みつけてやりたい。

別に私は生き物を踏みつけて興奮するような趣味はないが、なぜかあの生き物を見ると、そんな衝動にかられるのだ。

このままだと、本当にあの生き物を踏みつぶしてしまうかもしれない。今日の観察はこのくらいにしておこう。

不思議生物その2

朝目が覚めると、今日は快晴。

外へ研究しに行くにはもってこいの天気だ。

私はさっそく仕度をし、意気揚々と出かけていった。

何か興味深い物はないかあたりを見渡していると、それはすぐに見つかった。

亀である。

その亀は黄色い肌をしていて大きな緑の甲羅を背負っていた。

まあここまでならまだ普通の亀だろう。

私の興味を引いたのは、その亀が二本足で立っていたということだ。その亀は靴をはき、なんと首にスカーフまでつけている。

なんておしゃれな亀なんだ…。

そして、私とその亀にもっと近づいて観察しようとした瞬間、頭上から羽が一枚ひらひらと落ちてきた。

白く柔らかくて、とても美しい羽だった。この羽の持ち主もさぞかし美しい鳥なのだろうと私は想像を巡らせた。

しかし、頭上を見上げた瞬間それらは一気に崩れ落ちた。

確かにこの羽の持ち主は私の頭上を飛んでいた。

だが、それは私が想像した美しい鳥などではなかった。

この羽は世にも奇妙な空飛ぶ亀から落ちてきたものだったのだ…。

その亀は、甲羅に二枚の羽が生えていて、それを羽ばたかせてそらをとんでいた。

見た目はさっきの二足歩行の亀に羽が生えただけであとは同じだ。

しかしまさか亀が空を飛ぶとは誰が想像しただろうか。

本当にこの国は不思議だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0775k/>

とある王国の研究日記

2011年1月8日22時11分発行